

## 第2章 循環器病を取り巻く状況

### 1 東京都の地域特性

#### ① 人口密度が高い

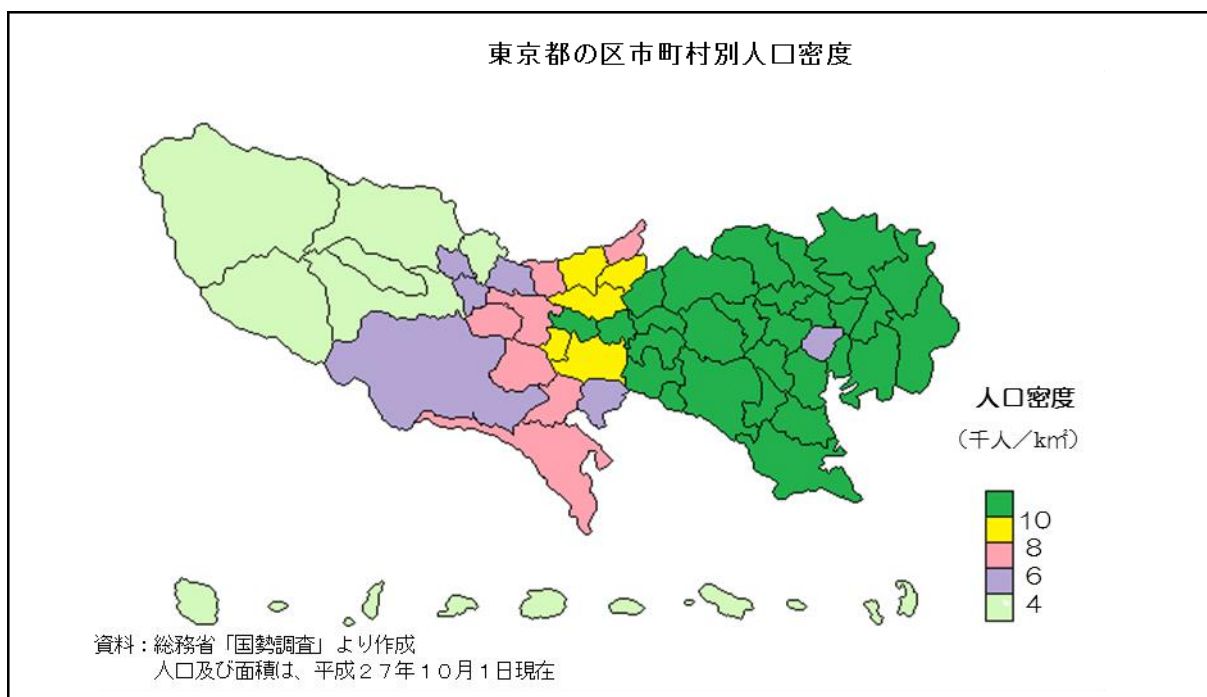
- 東京都の面積は全都道府県の中で3番目に小さく、また、人口は最多であり、人口密度は他の道府県と比較して、非常に高い状況にあります。

人口密度上位5都道府県

	都道府県名	人口密度	(参考)平成27年国勢調査時点	
			人口	面積
1	東京都	6,169 人/km <sup>2</sup>	1,352 万人	2190.9 km <sup>2</sup>
2	大阪府	4,640 人/km <sup>2</sup>	884 万人	1905.1 km <sup>2</sup>
3	神奈川県	3,778 人/km <sup>2</sup>	913 万人	2415.8 km <sup>2</sup>
4	埼玉県	1,913 人/km <sup>2</sup>	727 万人	3797.8 km <sup>2</sup>
5	愛知県	1,447 人/km <sup>2</sup>	748 万人	5172.5 km <sup>2</sup>

資料：総務省「国勢調査」平成27年

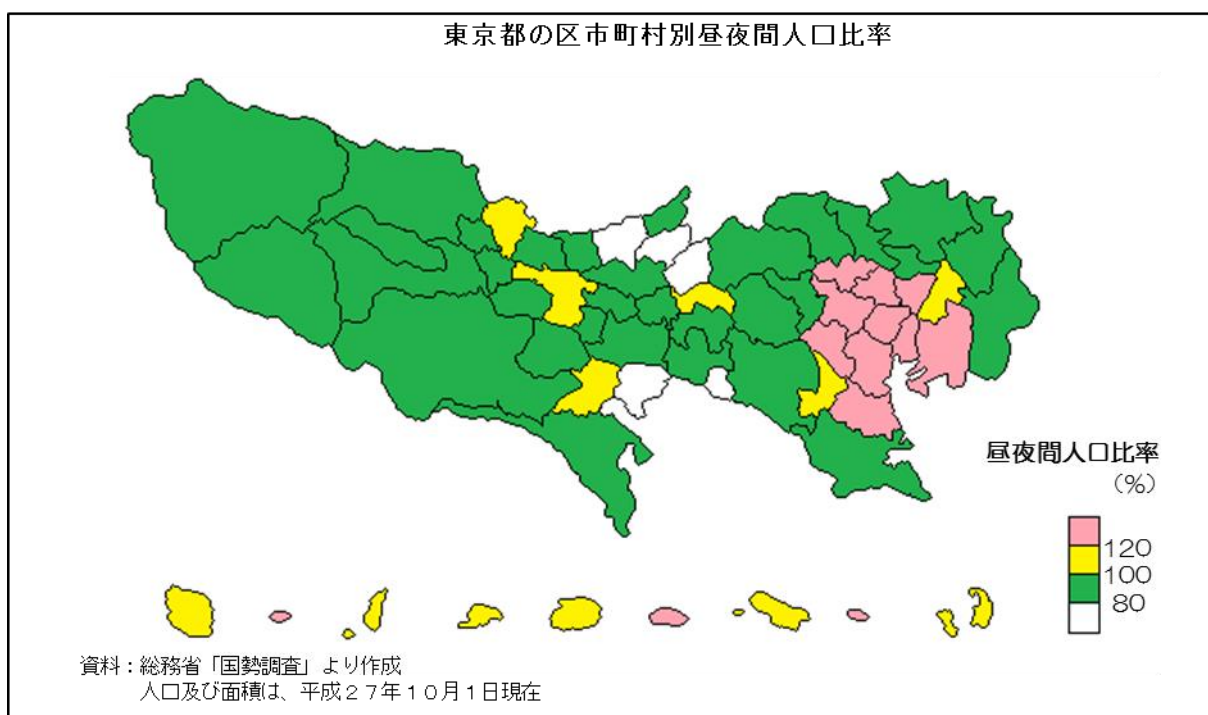
- 東京都における区市町村別人口密度（夜間人口）は、千代田区を除く区部及び区部に隣接する市部において、1平方キロメートル当たり1万人を超えています。  
また、町村部及び島しょ部の人口密度は、1平方キロメートル当たり4千人未満となっています。



② 昼夜間人口比率が高い

- 東京都における区市町村別昼夜間人口比率をみると、周辺部からの通勤・通学者の流入により、都心部で120%を超えています。特に千代田区は1460.6%、中央区は431.1%、港区は386.7%となっています。

一方、都心の周辺部及び町村部では概ね100%を下回っています。



③ 高度医療提供施設の集積

- 東京には、高度医療・先進的な医療を提供する大学病院本院や特定機能病院が集積しています。特に、がん患者など、都内全域や他県から高度医療等を求める患者を数多く受け入れています。

**特定機能病院とは**

高度医療を提供する医療機関として国が承認する医療機関

国立がんセンター中央病院	慶應義塾大学病院
東京慈恵会医科大学附属病院	東京医科大学病院
順天堂大学医学部附属順天堂医院	国立国際医療研究センター病院
日本医科大学付属病院	日本大学医学部附属板橋病院
東京医科歯科大学医学部附属病院	帝京大学医学部附属病院
東京大学医学部附属病院	公益財団法人がん研究会有明病院
昭和大学病院	杏林大学医学部付属病院
東邦大学医療センター大森病院	聖路加国際病院

令和2年12月1日現在

④ 医療人材養成施設の集積

- 13 医科大学・大学医学部や5 歯科大学・大学歯学部、11 薬科大学・大学薬学部、91 の看護師等養成課程などの人材養成施設が所在し、多くの医療人材を養成・育成しています。

⑤ 中小病院や民間病院が多い

- 都内の病院数は、令和元年 10 月 1 日現在 638 施設であり、全国で最多です。
- このうち 200 床未満の中小病院数は 440 病院であり、全体の 69%を占めます。
- 民間病院の割合は 90.6%で、全国値（81%）と比較して高くなっています。  
《厚生労働省「医療施設調査」（令和元年）》

⑥ 発達した交通網

- 鉄道やバスなどの公共交通網や道路網が高度に発達しており、比較的短い時間で移動が可能なアクセシビリティに優れた都市となっています。

⑦ 高齢者人口の急激な増加

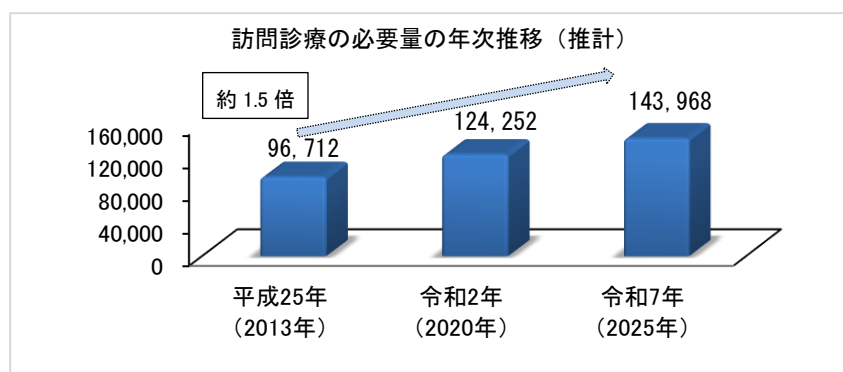
- 平成 17 年から平成 27 年までの 10 年間で約 71 万人増加しており、今後も引き続き増加することが予想されています。  
《総務省「国勢調査」（平成 27 年）》

⑧ 高齢者単独世帯が多い

- 都内の世帯数は、平成 27 年時点で約 669 万世帯となっており、そのうち高齢者単独世帯は約 74 万世帯、全世帯数に占める割合は 11.1%です。  
《総務省「国勢調査」（平成 27 年）》

⑨ 医療需要の変化

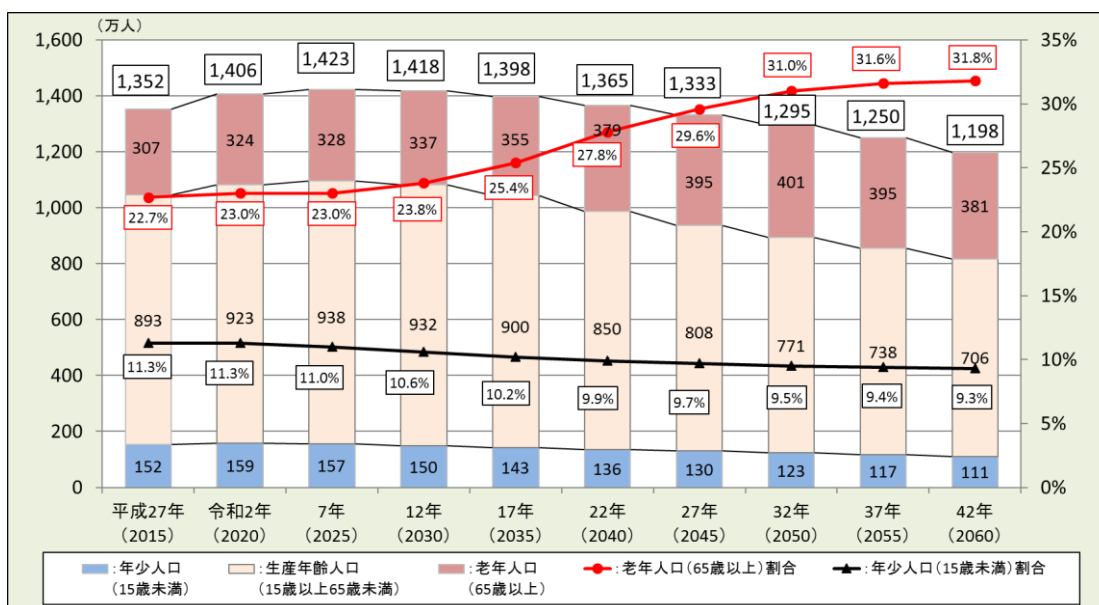
- 高齢化の進展により、都内全域での訪問診療の必要量が、2025 年には 2013 年比で約 1.5 倍となるなど、医療需要の変化が予想されます。



## 2 人口動向

＜年齢3区分別人口の推移と将来推計（東京都）＞

- 東京都の総人口は、2025 年 1,423 万人でピークを迎え、以後減少し、2060 年には 1,198 万人となることが予測されています。年少人口は 2020 年、生産年齢人口は 2025 年まで増加し、以後減少へ転じる見込みです。
- 老年人口は 2015 年の 307 万人（高齢化率 22.7%）から、2050 年に 401 万人（同 31.0%）へ増加し、都民のおよそ 3 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者という、極めて高齢化の進んだ社会が到来することとなります。

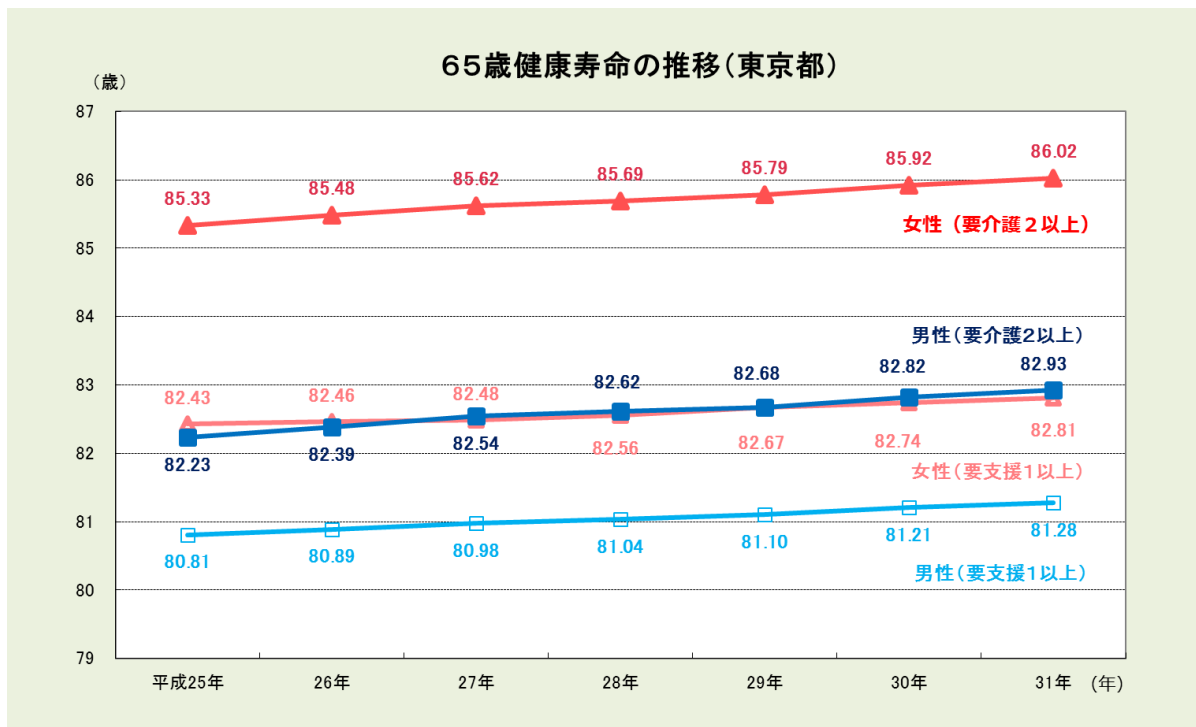


資料 東京都政策企画局「2060年までの東京の人口・世帯数予測について」

### 3 都民の健康の状況

＜65歳健康寿命の推移＞

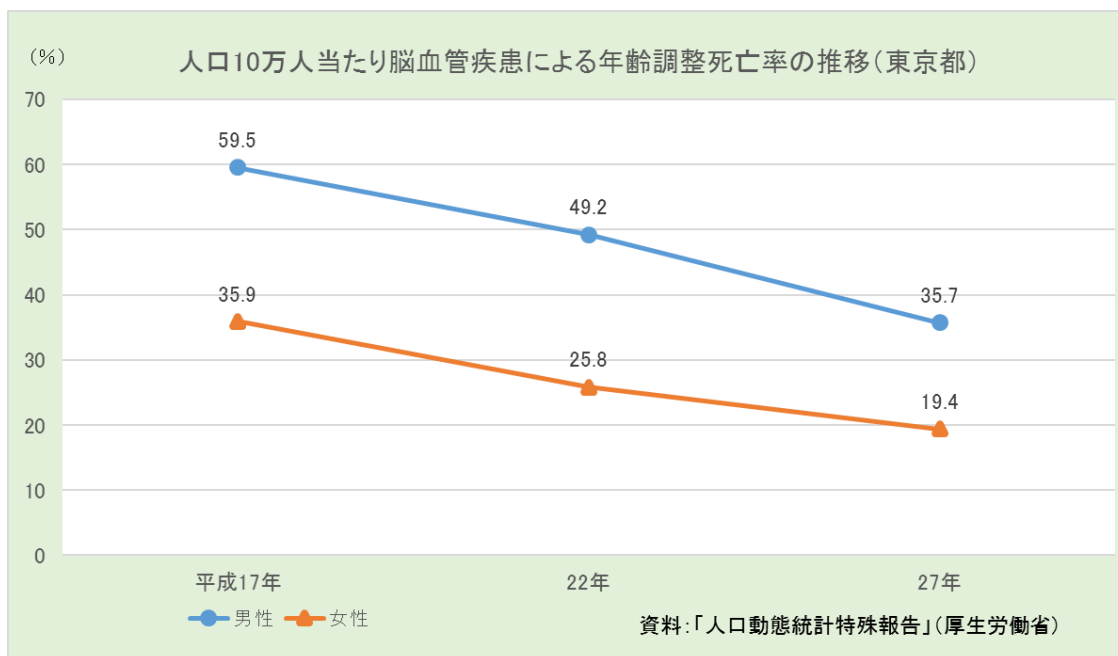
- 65歳健康寿命とは、65歳の人が何らかの障害のために介護保険の要介護（要支援）認定を受けるまでの状態を健康と考え、その認定を受けるまでの年齢を平均的に表すものです。
- 都では、65歳健康寿命の把握に当たり、「東京保健所長会方式」を採用し、介護保険の要支援1以上を障害とした場合と要介護2以上を障害とした場合の2つのパターンを算出しています。
- 65歳健康寿命は男女ともおおむね延伸しており、平成31年は、要支援1以上を障害とした場合では男性81.28歳、女性82.81歳、要介護2以上を障害とした場合では男性82.93歳、女性86.02歳となっています。



資料：「65歳健康寿命（東京保健所長会方式）」（東京都福祉保健局）

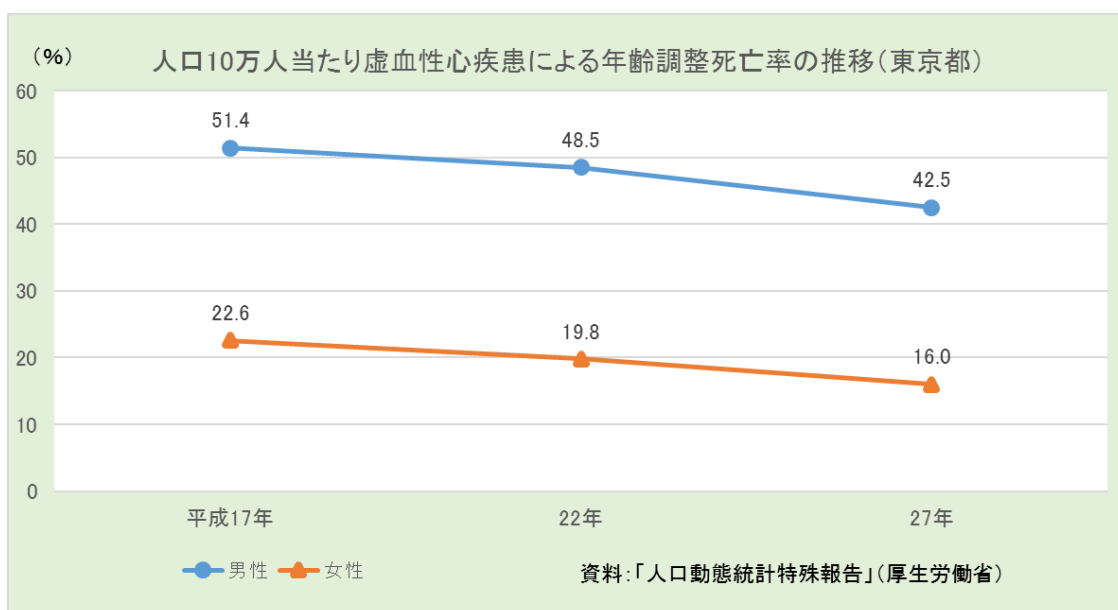
＜脳血管疾患による年齢調整死亡率＞

- 人口10万人当たりの脳血管疾患による年齢調整死亡率は、男女ともに減少しています。



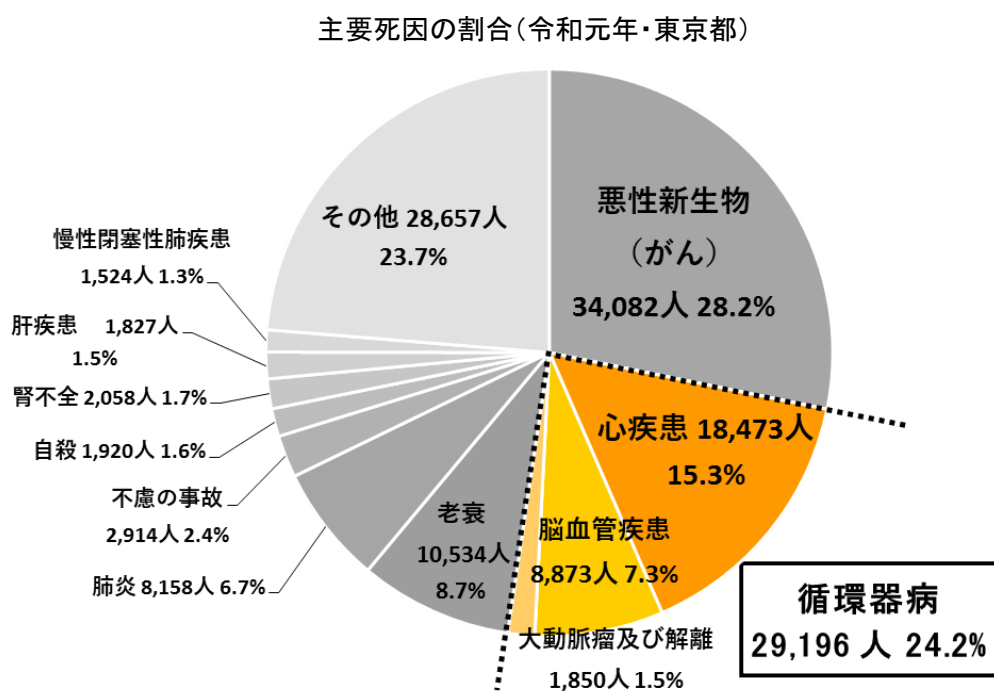
＜虚血性心疾患による年齢調整死亡率＞

- 人口10万人当たりの虚血性心疾患による年齢調整死亡率は、男女ともに減少しています。



＜主要死因における循環器病の割合＞

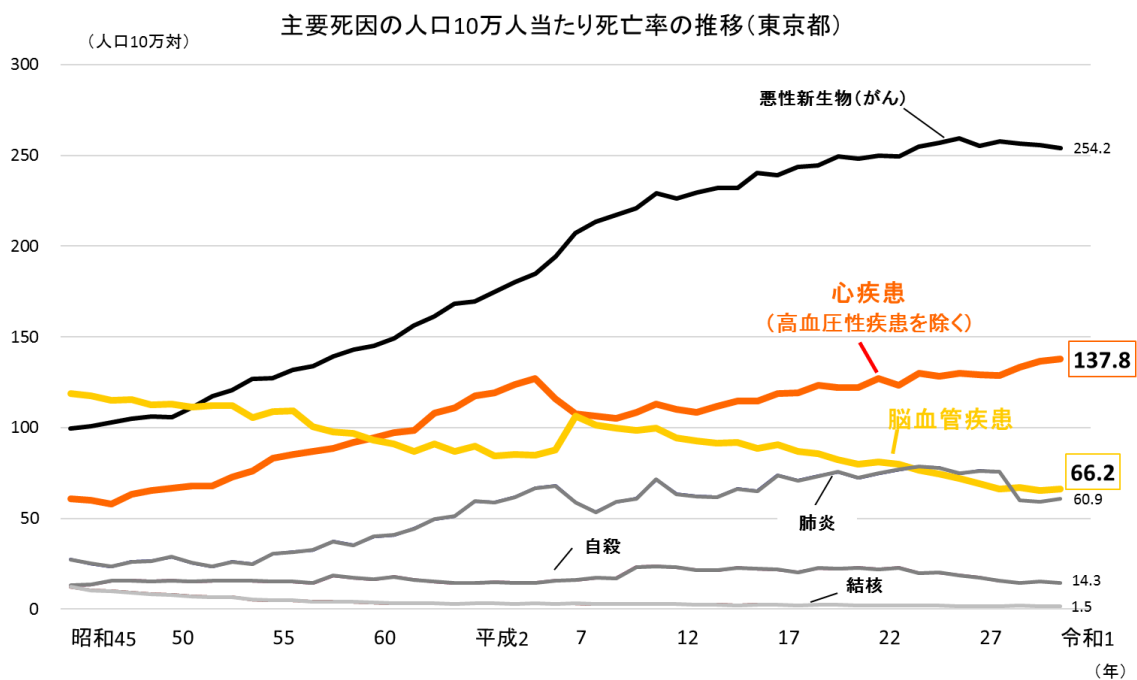
○ 心疾患（高血圧性を除く）の死亡者数は18,342人、脳血管疾患の死亡者数は8,873人、大動脈瘤及び解離は1,850人となっており、主要死因における循環器病の割合はがんに次ぐ第2位で、24.2%となっています。



資料：「人口動態統計」(東京都福祉保健局)

＜循環器病の人口10万人当たり死亡率の推移＞

○ 人口10万人当たり死亡率の推移をみると、心疾患は死因の第2位で微増傾向にあります。一方、脳血管疾患は減少傾向にあり、平成29年以降、死因の第4位となっています。



資料：「人口動態統計」(東京都福祉保健局)